

工業部会通信

(発行)
 かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239
 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。



ドローンの組み立て・飛行 親子で挑戦



親子ドローン組立・飛行教室の参加者たち＝市立産業会館

ロボットガーデン 83人が参加し イベント開催

次世代のロボット人材の育成につなげようと、相模原市と相模原商工会議所は7月29日、産業会館大研修室で「さがみはらロボットガーデン」のイベント・親子ドローン組立・飛行教室を開催した。



親子で協力してドローンを組み立てた

参加者は相模原市在住の小学校3～6年生の児童とその保護者。午前・午後の2回開催し、延べ41組83人の親子がドローンの組み立て、飛行実習を体験した。使用した機体はジープオース社のプラモデル感覚で組立てができるトイドローン。ドローンの名前の由来や飛行する仕組みについて講義を受けた後、ドローンを組み立て、自作ドローンを飛行させた。また、会場にはお菓子の当たりくじを吊り上げるドローンキャッチャーのコーナーも設けられた。当たりくじを吊り上げると所々で児童たちの大きな歓声があがっていた。最後にはDJI社製のトイドローンTelloにて記念撮影を行うなど、終始親子の楽しむ声が聞こえるイベントとなった。

TRY 最新IoT技術に触れる NNTT研究開発施設を視察

TRYプロジェクトは8月3日、今年度最初の視察事業である「NNTT武蔵野研究開発センター視察会」を開催した。当日は23人が参加。視察した「武蔵野研究開発センター」は、国内外の研究者と研究開発活動を行うための情報交流諸施設を備え、多彩なマルチメディアサービスを創出する生として経験を積んだ人材が幹部になっている。同組合の桑原俊也代表理事（共伸テクニカル社長）は「日本人の場合、募集をかけても集まらず、いつ辞めるか分からないリスクがあります。その点、外国人は熱心です」と説明。ベトナム、フィリピンの実習生は若い人材が多く、金属加工など、モノづくりの技術を持つ人材もいるという。また、現行制度では実習生の受け入れ期間は「3年」と決められているため、逆に企業側にとっては、帰国を見越し人材計画を立てやすいとしている。

共伸テクニカルなど4社 技能実習生の受け入れ組織

共伸テクニカル（中央区田名）など、地域企業4社により設立された事業協同組合「相信」（042・713・3943）が、このほど本格稼働した。人材不足が加速する中、ベトナムとフィリピンからの外国人技能実習生を受け入れ、グローバル人材を育成、県内企業に送り出す。同組合は製造業が中心となって発足したため、人材で困っている同業者のニーズに的確に応じられるとしており、初年度は実習生を200人受け入れ、30社への送り出しを見込んでいる。

送り出す実習生は「溶接」「機械加工」「土木」の3分野。対象は県内全域と山梨県内の企業。企業側が求める人材を聞き出し、現地での採用面接から一貫してサポートしていく。また、受け入れしやすいように同組合に支払う毎月の管理費は、実習生1人当たり3万5000円（3人まで）、



「相信」の桑原代表理事

同3万3000円（4人6人）、同3万1000円（7人以上）に設定した。共伸テクニカルは8年

前から外国人技能実習生を受け入れており、現在は生産現場で6人が活躍。また、同社のベトナム工場では、かつて実習

生として経験を積んだ人材が幹部になっている。同組合の桑原俊也代表理事（共伸テクニカル社長）は「日本人の場合、募集をかけても集まらず、いつ辞めるか分からないリスクがあります。その点、外国人は熱心です」と説明。ベトナム、フィリピンの実習生は若い人材が多く、金属加工など、モノづくりの技術を持つ人材もいるという。また、現行制度では実習生の受け入れ期間は「3年」と決められているため、逆に企業側にとっては、帰国を見越し人材計画を立てやすいとしている。

相模原の未来を創る

株式会社 富史産業



仮設足場工事部

〒252-0336
 相模原市南区当麻3539-74
 TEL 042-711-9735
 FAX 042-711-9736
<http://www.fuji-san.co.jp/>

警備事業部

〒252-0239
 相模原市中央区中央3-11-19
 榎本第2ビル3F
 TEL 042-707-0935
 FAX 042-707-0936
<http://www.fuji-keibi.jp/>

※足場職人・警備員 随時募集中です。経験、未経験に関らずお問い合わせください。